

「ジーン・メイヤー博士地球市民賞」授賞式

2011年1月5日

広島平和記念資料館メモリアルホール

【ベン・パールスタイン タフツ大学 IGL メンバー】

ドウモアリガトウ。

本日、タフツ大学グローバル・リーダーシップ・インスティテュート(以下 IGL という)は、秋葉忠利広島市長の功績を称え、「ジーン・メイヤー博士地球市民賞」を贈呈します。

IGL は、25 年前、将来を担う青年が、優秀な指導者となるために必要な批判的思考を身に付け、異なる文化の国際的・国内的問題に地球市民として対応できるようタフツ大学に設置されました。IGL は、理論を実践へとつなぎ、多様な世界の厳しさや課題を学生が学ぶよう推奨しています。

「ジーン・メイヤー博士地球市民賞」は、タフツ大学学長・総長であったジーン・メイヤー博士の功績を称えるため、1993 年に設けられました。「学問、研究、指導は、世界が直面する緊急課題の解決に資するものでなければならない」という、メイヤー博士の信念に合致するような道義的勇氣、高潔さ、学問への情熱を有する著名な学者や専門家を表彰し、タフツ大学の学生や地域の人々を鼓舞することを目的としています。

メイヤー博士は世界的に著名な栄養学者で、750 本以上の学術論文と 10 冊の著書があり、三人の大統領（ニクソン、フォード、カーター）、国連食糧農業機関、世界保健機関、国連児童基金、米国国務長官の相談役を務めました。

メイヤー博士は 1966 年にベトナム戦争での枯葉剤の使用に異議を唱えた最初の科学者であり、1969 年には、戦争で荒廃したビアフラ共和国を訪れ、住民の健康や栄養状態を調査しました。また、1970 年には、飢餓に関する国際シンポジウムを企画しましたが、このシンポジウムの結果、災害時に食糧援助や救援活動がどのように行われるべきかについての最初の包括的文書が作成されました。さらに、メイヤー博士は、政治的道具として飢餓を利用することは人権侵害であり、非合法化されるべきだと最初に提案した人物でもあります。

メイヤー博士は、第二次世界大戦中の功績により、3 個の戦功十字賞やレジスタンス勲章を

含む 14 の勲章を受けています。

ニューイングランド高等教育委員会委員長として、有色の南アフリカ人が自国にある人種混合の大学へ進学できるよう奨学金も設立しました。

ジミー・カーター元大統領は、メイヤー博士について、「メイヤー博士の人生と実り多き功績は、全人類のために捧げられたものであった」と述べています。

IGL は、インスティテュートの発展に多大な貢献をしたジーン・メイヤー博士の功績を称えるため、1993 年に「ジーン・メイヤー博士地球市民賞」を設置しました。

この賞を、世界的核兵器廃絶運動の指導者であり、元タフツ大学教員であった秋葉市長に贈呈することを、メイヤー博士は心から喜んでくれるであろうと思います。

秋葉氏の経歴は数学者として始まっていますが、多くの方が、世界的人道家としてとらえていると思います。秋葉氏は、広島市長就任以来、平和の推進に尽力するとともに、地元だけでなく世界的に異文化理解を推進しています。秋葉氏は、広島を一流の「国際平和文化都市」へと、また再生と和解を讃える都市へと発展させました。

平和市長会議の会長として、秋葉氏はこの組織の知名度だけでなく加盟都市数も向上させています。現在、平和市長会議には 150 か国・地域の 4,467 都市が加盟しています。平和市長会議の「2020 ビジョンキャンペーン」の一環として、世界中を訪れ、政策立案者や市民たちに 2020 年までに核兵器を廃絶するため尽力するよう働きかけています。この核兵器廃絶のための取組は、「欧州議会」、「全米市長会議」、「核戦争防止国際医師会議(IPPNW)」、「都市・自治体連合 (UCLG)」等から強力な支持を得ています。秋葉市長と平和市長会議の尽力に対しては、核時代平和財団から「世界平和市民賞」、国際平和ビューロー(IPB)から「2006IPB ショーン・マクブライド平和賞」、さらにフランツモール財団から「2007 核のない未来賞」が授与されています。また、最近では、秋葉氏は、アジアのノーベル賞といわれる「ラモン・マグサイサイ賞」を受賞しています。

最も重要なこととして、秋葉市長の取組は、広島の人々の声とその歴史に導かれたものです。

タフツ大学 4 年生で、IGL のメンバーの一人であるナディア・ニブズが、IGL を代表し、秋葉忠利市長に「ジーン・メイヤー博士地球市民賞」を贈呈します。

**【ナディア・ニブズ タフツ大学 IGL メンバー】**

秋葉市長。本日、市長の講演を聞き、世界平和に関する市長のお考えや御意見を拝聴できたことを本当に幸運に思います。世界に変化を起こしていただいていることに感謝します。

タフツ大学を代表し、市長の平和と異文化理解への御尽力と、核兵器廃絶に向けた献身的取組に対し、「ジーン・メイヤー博士地球市民賞」を贈ります。

**【秋葉忠利 広島市長】**

ありがとうございます。かつて教鞭を執り、先に申し上げたように我が家であったタフツ大学から、広島市長としての私の取組を評価いただいたことは本当に嬉しいことです。私はタフツ大学を去り、広島へ来てしまったわけですが、できることなら、市長の職を退いた後、タフツ大学へ戻り、皆様と御一緒したいと思うほどです。

しかし、何にもまして、メイヤー博士の人類への貢献を象徴するこの賞を贈呈いただいたことは、私にとって意義深いことです。私が教鞭を執っていた当時の学長がメイヤー博士でした。博士の指導力とすべての人々のためによりよい未来を構築しようとする博士の精力的取組は、全教員、全学生にとっての模範でした。

メイヤー博士の献身的尽力により、タフツ大学は当時世界的に憂慮されていた課題のいくつかの解決に貢献することができました。たとえば、メイヤー学長当時、南アフリカではアパルトヘイトが問題になっていました。タフツ大学は、学生の要請により、この問題に対して明確な態度をとることとなり、南アフリカ国外からアパルトヘイトの撤廃に貢献しました。こうした伝統は生きています。これこそタフツ大学の使命であり、皆様の使命です。

この賞をありがたくお受けします。心から御礼申し上げます。

これからも、皆様とともに 2020 年までに核兵器のない世界を実現するため尽力することを誓います。本当にありがとうございました。